

平成30年度第1回北斗市総合教育会議（概要）

日時：平成30年8月23日（木） 10：00～

会場：北斗市役所3階 第4委員会室

## ●出席者

---

### ○北斗市総合教育会議委員

北斗市長 池田 達雄  
教育長 永田 裕  
教育委員 伊藤 哲朗  
教育委員 村上 久美子  
教育委員 吉田 秀美  
教育委員 伊藤 恵子  
教育委員 長内 克磨

### ○事務局・説明員

教育次長 岡村 弘之  
学校教育課長 小野 義則  
社会教育課長 八木橋 直弘  
学校給食共同調理場所長 安藤 裕樹  
企画課地方創生担当課長 楠川 修

## ●資料

---

- ・資料1 北斗市教育大綱 新旧対照表
- ・資料2 北斗市教育大綱（改正案）
- ・資料3 SDGsについて

## 1 開会

---

## 2 市長あいさつ

---

### ○池田市長より開会のあいさつ

おはようございます。皆様にはお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。ご承知のように、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴って、平成27年の4月から新しい教育委員会制度に移行することになり、本市においては、平成27年から平成29年度の3年間の教育大綱を策定しました。本来であれば30年度当初から新たな教育大綱を実施しなければなりませんでしたが、諸般の事情から本日へと至っております。

29年度までの大綱は期間を3年間としておりましたが、できれば市長の任期に沿った形で4年間の大綱を定めたいと思っております。今回の策定にあたっては、継続性があり、施策目標をきちんと達成できるよう大綱を定めたいという思いから、前高谷市長始め、当時の教育委員の皆様方が策定した教育大綱をもとに案を作成させていただきました。その中に、市政執行方針にもあるSDGsの考え方や理念を取り入れさせていただきました。また、英語教育の推進についても新たに加えております。

よく私はこのSDGsのお話をするのですが、これは2015年に国連サミットにおい

て全会一致で採択した持続可能な開発目標でありまして、17のゴールと169のターゲットがあります。この目標の中には教育や環境といったものも含まれており、理念のなかには、誰一人取り残されない社会の実現というものもあります。これはまさに教育において言えることではないかと思っております。そういった私の思いなり、先ほど申し上げました英語教育だとか、それからコミュニティスクールだとか、新たなものを組み入れた中で、今回の教育大綱の改正案というようなものを本日お示しし、広く委員の皆様方からご意見をいただいた中で、そしてパブリックコメントにかけて、大綱を策定したいので、ぜひ委員の皆様方におかれましては、忌憚のないご意見をいただければ大変ありがたいと思っております。

改めまして皆様方のご出席に心から感謝を申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

### 3 出席者の紹介

---

○委員、事務局説明員紹介。

### 4 協議事項

---

○配付資料について説明。

#### (1) 北斗市教育大綱の改定について

---

○事務局より、資料1に従い、教育大綱案についての説明。

変 更 点	
策定の趣旨	平成30年度市政執行方針にあるSDGsの理念を明記。 大綱の対象期間を市長任期と同様に4年とした。
施策1	平成32年度から小学校での英語教育が必修化されることに伴い、「国際化に対応した人材を育成するため、英語教育を推進する。など」を追記。
施策3	平成29年度までの大綱において「フッ化物洗口の実施」について記載されていたが、小中学校において実施済みになったため記述を削除。
施策4	特別支援教育の推進について、北斗高等支援学校が開設されたことに伴い同校との協力連携を追記。

○地方創生担当課長より、SDGsについての説明。

SDGsは、平成30年度の市政執行方針にもあるもの。概要は資料3のとおりとし、北斗市の取組みについて説明する。今年3月に内閣府が全国の自治体に対し、SDGs未来都市またはモデル事業の募集を行った。市政執行方針で掲げたことと、市のこれまでの施策がSDGsの理念に合致していた点が多くあったことから、本市も事業提案を行った。経済・

社会・環境、3つの側面が相乗的に推進される事業に自治体に取り組むことが地方創生に資すると考え、本市においては社会の分野に教育のゴールを設定した。内容としては子供たちの豊かな個性と多様な能力に磨きをかけ、知の保証プランによる基礎学力の向上や、ICT教育、英語教育の強化により、新しい時代を生きる力を育み、全道・全国レベルで活躍する、文化・スポーツ活動を促進すること、さらには、郷土愛を醸成し、地域経済や文化活動を支える人材を輩出することを、北斗市の社会の側面によるSDGsの実現に向けた事業に位置づけて提案した。全国から29都市がSDGs未来都市として選定され、特に先導的な取り組み10事業が自治体SDGsモデル事業として選定されたが、本市は残念ながら採択に及ばなかった。

○資料1から資料3までの説明を終えて質疑。

発言者	発言内容
吉田委員	施策6で環境を守ろうとする教育の推進や、SDGsの目標にも環境への取り組みがあると思う。例えば今、海のプラスチックゴミが問題になっているが、企業などではプラスチック製ストローの素材代替などに取り組んでいるところもあるが、北斗市としてできる取り組みはあるか。
地方創生担当課長	SDGsにおいては環境への取り組みを自治体へ強く求めるものだが、行政の役割としては、本市においては以前からプラスチックゴミの分別収集を実施しており、リサイクルの推進という面においても施策として取り組んでいる。海洋汚染の問題への取り組みとしては、以前から海岸線クリーン作戦を実施している。ストローの問題は生産者の課題であるため、行政としては呼びかけにとどまるだろう。
教育長	大綱においては、施策6で自然環境を守ろうとする教育の推進ということ掲げているため、海洋汚染などの問題についても、学校教育のなかで取り組められればと考えている。

発言者	発言内容
伊藤（恵）委員	小学校で外国人講師の授業が行われているが、時間数を増やすことはできるか。
学校教育課長	現在ALTは3名おり各学校へ配置しているが、平成32年度から小学校での英語教育が必修化されることを踏まえ、増員の必要があるか検討する。道の英語教諭の加配などの状況も見ながら、子どもたちの英語教育環境を整えていく。
教育長	茂辺地地区では、ALTを2名から3名に増員して、手厚い英語教育を実施している。ほかの地区での実施については市長部局と協議していきたい。

発言者	発言内容
伊藤（哲） 委員	小中学校の文化・スポーツ活動に対する更なる支援はあるか。
社会教育課 長	学校教育のなかで支援を行ってきたが、今年度からはスポーツクラブを体育施設の指定管理者としており、学校・幼稚園などに、スポーツクラブのメンバーを派遣しスポーツ指導などを行っている。始まったばかりの事業のため実績は僅かだが、今後派遣回数などを増やして行きたい。
市長	小中学校の本分は学習だと思っているが、心身の充実を図るためにはスポーツ・文化・芸術活動も必要だ。本市においてはクラブ活動や部活動の取組みがあるかと思う。子どもたちは勉強をだけでなく、スポーツ・文化・芸術活動についても全国大会で活躍しており、大変頑張っていると思う。それに対して市ができる応援としては、遠征費用の補助や、学校以外にも市の体育館などの施設を開放し利用できる環境を整えていくことだと思う。子どもたちが生き生きと学び、生活できる環境を作っていくのが我々行政の役目だと思っている。

(2) その他（登下校時における児童生徒の安全確保について）

発言者	発言内容
市長	今年の5月に新潟市で下校中の女兒が殺害されるという大変痛ましい事件があった。本市も数多くの不審者情報が寄せられ、そのたびに関係各位へ速やかに周知をしているところ。登下校時における児童生徒の安全確保についてご意見を伺いたく、本議題を設定した。
教育長	この件については、市議会においても質問があったことだが、従前は交通事故についての注意を行ってきた。だが今回の事件では、今まで安全だと思われていたところで事件が起きたことを踏まえ、各学校においては、新たな視点で危険箇所などの洗い出し、把握をし、学校だけでなく地域にも情報提供し共有することで、市民の皆様の協力を得られるのではないかと思う。人通りのなく人目につかないところには防犯カメラや、注意看板などの設置をするとよいのではと思う。
市長	不審者情報など、今はどの範囲に流しているのか。
教育次長	不審者情報は、一番近い地域の町内会長と、青色防犯パトロール隊へ周知し、近辺や所属地域の見回りをしてもらっている。教育委員会への連絡のほかにも、各幼稚園、保育所にも連絡している。広い範囲に周知することが重要だと思っている。メール配信システムがある学校では保護者へすぐにメール配信している。

吉田委員	他の自治体で実際に取り組まれていることだが、地域の人に登下校の時間になるべく外に出てもらうようにして様子を見るように協力してもらっているところがある。不審者情報を地図に落とし、多発地帯には防犯カメラを設置する取組みもあるそうだ。他には、有事の際にドライブレコーダーの映像を提供してもらえるとよいのではないかな。
市長	ドライブレコーダーは、今後、市のバスや市長専用車に設置する。理由は、交通トラブルを最小限にするため。市所有バスは学校活動、老人活動など市民活動に使われるため市民を乗せることが多いので、安全な運行の裏づけとしても有効と判断している。
伊藤（恵）委員	防犯などは、地域の方々との連携が大事ではないかと思う。生徒からの情報だけでなく、地域の人の不審者目撃情報も学校が掴めるような協力体制があればいいのではないかと思う。
市長	私の経験で子どもから不審者情報を聞くことがあったが、情報が大きまかで、子どもからの情報だけでは掴みきれないときがある。子どもが怖がることもあるので詳しく聞きづらいこともあるが、でも聞かないとにならないので、今後、子どもたちには、見方や覚え方、伝え方などを教える機会を作っていければよいと思う。
長内委員	子どもの持っている不審者のイメージは黒い手袋をしていたり、全体的に黒っぽい服装をしていたりという固定されたイメージがありがちだが、実際は違うことがある。情報を受け取る側が配慮して聞くことが求められるのではないかと思う。テレビや新聞で報道される実際の事件では、インタビューに答える人などが、まさかあの場所でとか、あの人がという答えをしていることがある。そのまさかという部分を把握しておくことが大事だと思うが、学校の把握した情報だけでは掴みきれない部分がある。さきほど市長が述べたように、ドライブレコーダーなどの情報提供なども大事だと思うが、加えて、地域の情報を吸い上げてまとめる仕組み、機関も必要ではないかと思う。
市長	久根別地区には久根別地区子どもを育てる会というのがあり、一部の町内会で、登下校の時間に交差点や通学路を歩いたりし、上手く上磯小学校と連携し情報共有などをしているという話を聞く。学校だけ、地域だけで取り組むのではなく、情報の共有をしっかりとしていくことが大事だと思う。
村上委員	最近では、登下校時に自宅間近でも何が起るかわからない状況なので、近所の方の見守り活動は大変重要になってきていると思う。不審者目撃の多発地帯などでは、教育長も述べたように注意喚起の看板や防犯カメラの設置は必要だと思う。子どもたちが助けを求めているときに周囲が気づけるように防犯ベルなどの設置をするのはどうだろうか。

	不審者などから子どもを守る取組みのほかに、交通事故から守ることもこれまでのように大事だと思うが、道路側溝のふたの間隔が広く、大人でも足が落ちそうなどところがある。そうしたところを無くすようにしてほしい。
市長	私は春ごろから時間があるときには市内の各所を歩くようにしている。この前は七重浜から谷好あたりまで歩いた。村上委員の言うように、歩道が切れた場所などはどうしても道路を歩くことになる。私が気づいたところは担当課へ指示しているが、他にもお気づきのところがあれば、報告してほしい。
伊藤（哲） 委員	防犯の見地から見れば、情報の共有が一番大事だと思う。例えば郵便配達、新聞配達、宅配業者、学校、警察、そういった方を巻き込んだひとつのネットワークを作ればだいぶ違うのではないかと思う。情報をまめに発信していけばいいのではないか。 ちなみにそういったシステムはあるか。
市長	高齢者の安否確認、見回りは、郵便局などとの協力がある。けれども伊藤委員のおっしゃるとおり、配達員の方などは常に外を見て回っているのでそういった方々との協力体制、情報ネットワークの構築は非常に大事なことだと思う。
教育次長	皆様から頂いた意見を参考に、今後も通学路の安全確保に向けた施策を実施し、安全管理面において少しでも効果の上がるよう取り組んでいきたい。

○その他の意見として、教育委員から恵庭市の図書館の取組みについて報告。

教育長より補足説明。子どもの読書活動推進計画について今後取り組んでいきたい。

○教育次長より次回会議について、パブリックコメントが終了した後開催する旨説明。

○閉会にあたり市長あいさつ

皆様にはお忙しいところお集まりいただき貴重なご意見を頂きました。今後パブリックコメントに付して、皆様方にご相談申し上げることになりますが、やはり教育というのは国家百年の大計とも言われる本当に大事なことです。子どもは、まちを維持していくためにも発展させるためにも大切な存在。そこの原点は教育になっていく。これは教育委員会だけではなく我々市役所もきちんと対応して参りたいと考えておりますので、今後とも皆様の貴重なご意見を伺えられればと思っております。

以上で平成30年度第1回北斗市総合教育会議を閉じさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。